

(3)-1 ひび割れ簡易注入補修(OGS一液弾性エポキシ樹脂注入工法)

塗装下地の0.3mm以上のひび割れ表面の目止め・ボンドOGS工法

(※民間物件対応工法)

施工手順

施工方法

補修範囲の確認

- ・目視及び打診により、補修範囲を確定し、マーキングする。
(既設外壁材が吹付けタイルの場合、仕上げに違和感を生じる恐れがあるので、仕上げ方法を監督官と協議の上、確定し施工を実施する。)

ワイヤーブラシケレン

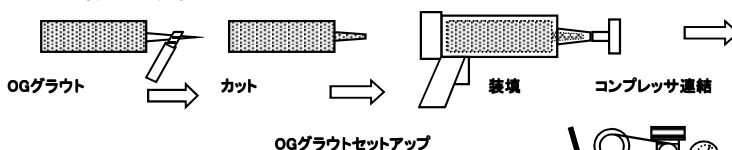
- ・ひび割れに沿ってワイヤーブラシケレンを行い、吹付けパターンを損わない様に表面の脆弱層を除去する
(ケレン時に粉塵によりひび割れの目詰まりさせないように注意し作業する。)

下地のケレン清掃

- ・ひび割れ表面の粉塵をブロワーとダスター刷毛で除去する。
(粉塵でひび割れの目詰まりしないように注意して清掃する。)

OGグラウトガンのセットアップ

- ・注入材のカートリッジ先端5mmをカッターナイフで切断する。
- ・カートリッジ先端の防湿膜をドライバーで開封する。
- ・OGグラウトガンをセットアップしカートリッジを装填する。
- ・モルタル表面に凹凸がある場合は、注入ノズル先端へ※発泡ゴム等のパッキングを工夫して張り付ける必要があります。



弾性エポキシ樹脂注入

- ・OGグラウトガンの先端のゴムチップをひび割れ表面に押し当て、注入を開始し、ゴムチップ端から注入樹脂が溢れ出すのを確認し、ノズルを順次ひび割れに沿って移動させ、順次樹脂注入を行う。

清掃、養生

- ・ひび割れ周辺に付着した注入材を溶剤を含浸させたウエスで拭き取る。

微弾性フィラーの混合

- ・キクスイソトリカバリーエポを規定配合比で混合する。(主材16kg:水0.3~0.6kg)
- ・フィラー材の混合は、2時間以内に使用できる量を混合する。

フィラー材を塗布する

- ・ひび割れに沿って約50mm幅でフィラーをローラー塗布、(塗布量目安:0.9~1.5kg/m²)

刷毛引き処理

- ・既設モルタル表面と補修部分に段差が生じないように、塗布後直ちに刷毛引きし補修部分との取合いを馴染ませ段差修正を行う。

養生

- ・雨掛りや、ドライアウトが発生しないように必要に応じて、養生を行う。
冬季夜間の気温が5℃以下になる場合は作業終了時間を早め凍結等の障害を防止する。

完了

